

四季の移ろいを、感じ



◎ 尾花 基

美術センター 須恵町立 久我記念館

KUGA KINENKAN MUSEUM OF ART



施設概要

■用途:美術館 ■建築面積:372.71㎡/延床面積546.83㎡/1階展示室93.42㎡(ガラスケース含む)/ホール:69㎡/町民ギャラリー:25.2㎡/小展示室25.6㎡/2階常設展示室157.23㎡/収蔵庫25.48㎡ ■構造:鉄筋コンクリート造2階建て ■設置年:昭和61年 ■所管課:社会教育課 ■管理形態:直営 ■収蔵点数:陶磁器約240点(うち須恵焼約60点)、絵画・書・工芸作品約100点 ■主な事業:展示事業(常設展示・企画展示)・教育普及事業(ワークショップ・講座等)・刊行物発行・作品等の貸し出し・作品収集保管事業

展示室利用

■1階展示室・町民ギャラリーの貸し出しを行っています。詳しくは美術館事務所にお問い合わせください。

交通アクセス	▶車	天神から東へ、福岡空港から約25分 利用道路 須恵スマートIC(普通車限定)・福岡IC・太宰府IC 国道201号線、筑紫野一古賀線
	▶バス	西鉄バス3および36番系統「一番田」下車、徒歩約10分
	▶JR	香椎線「須恵駅」下車 徒歩約30分、タクシー約5分
開館時間	入館料	無料(無料駐車場約30台)
	休館日	月曜日(休館日が祝祭日の場合はその翌日)、盆と年末年始
	所在地	福岡県糟屋郡須恵町須恵77-1
	Tel・Fax	092-932-4987
	E-mail	museum@town.sue.fukuoka.jp

ホームページにて展覧会の情報等を公開中

https://www.town.sue.fukuoka.jp/kanko_bunka_sports/shisetsu/6/index.html

(2011年9月現在)

施設案内

ようこそ森の美術館へ



須恵町立

美術センター 久我記念館



KUGA KINENKAN MUSEUM OF ART

沿革 ～私設美術館から町の美術館へ～

当館は、「うすれ日」「放牧三馬」などを描いた洋画家、坂本繁二郎画伯(昭和31年に文化勲章受賞)を世に送り出した人として知られている故・久我五千男(くが いちお)氏の私設美術館、「久我美術研究展示館」として、昭和54年(1979年)5月16日に竣工しました。

久我氏は、坂本繁二郎氏の作品・九州の古陶磁器・キリシタン美術資料・須恵焼などのコレクションを展示しました。キリシタン資料「羊型石版」の材質が須恵町産のカンラン岩であること、須恵焼の収集を行っていたこと、美しい山と湧き水があることなどの条件が立地の決め手となりました。

久我氏は、昭和59年に急逝されました。ご遺族のご厚意により、敷地・建物・記念資料を須恵町に寄贈いただきました。昭和61年8月6日に、須恵町立美術センター久我記念館と改称して現在に至っています。



悠久の森に抱かれてアートを満喫

須恵焼概要

■ 須恵焼とは

須恵焼は、江戸時代から明治にかけて須恵町大字上須恵で焼かれた磁器です。この焼物は、今から約240年前の宝暦14年(1764)、藩士新藤安平常興が始めました。『筑前国続風土記附録』によると、安平は、藩主の恩に対して何らかの恩返しのために発案したと記録されています。

■ 須恵焼の始まり

当初、安平の個人資金で築窯しました。天明4年(1784)、新藤安平の死後、その息子新藤長平尚央が初代皿山奉行に就任し、須恵皿山役所が設置されました。しかし、皿山役所はわずか25年で廃止となり、その後は地元の陶工によって生産が続きました。

■ 須恵焼の隆盛

幕末の11代藩主黒田長濤の代に、須恵焼は藩の殖産興業の一環として取り入れられ、京都から陶工沢田舜山を招くなど優れた製品が焼かれています。しかし、幕藩体制の崩壊により明治3年(1870)に皿山役所は廃止しました。再び民間の経営となり、明治19年(1886)には須恵陶器会社が生まれました。この時期には金錆染付という特色ある製品が焼かれ、今から約100年前、明治35年(1902)ごろに廃絶しました。

■ 発掘された須恵焼

発掘調査によって、須恵焼の流通が少しずつ明らかになっています。筑紫野市の原田、北九州市の黒崎と木屋瀬にある江戸時代の宿場(「筑前六宿」と呼ばれる)の本陣付近から宿場名を記した須恵焼が見つかっています。このことから、須恵焼が藩用の焼物として流通していたことが分かりました。秋月藩(福岡藩の支藩)の江戸藩邸からも「スエ」銘の須恵焼が見つかっています。

須恵焼の窯跡は、現在も須恵町大字上須恵の皿山に残っており、県史跡「福岡藩磁器御用窯」として保存されています。



福岡藩磁器御用窯「須恵焼」



収蔵品



伊藤 忠雄

堀 和道



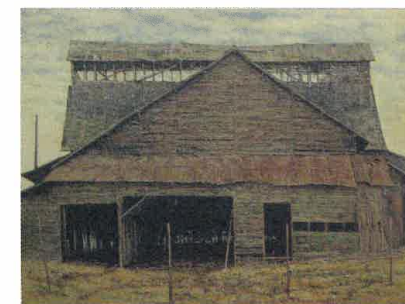
山内 重太郎

尾花 成春



石田 平

松田 朴伝



池田 正臣



◎ 尾花 基



1階:ホール壁面 ◎ 尾花 基



1階:展示室 ◎ 尾花 基



2階:須恵焼常設展示室

■ デザイン

当美術館は、16世紀に大分に作られたイエズス会の伝道学校をイメージし、自然光を窓から取り入れた施設として設計されています。

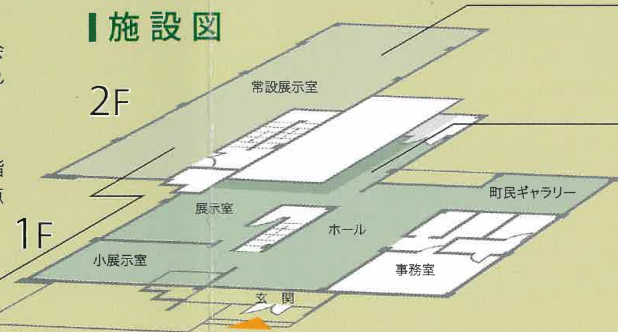
■ 展示

館内では、1階展示室で各種企画展を開催し、2階の常設展示室は筑前の磁器御用窯「須恵焼」約50点を常時展示しています。

収蔵作品の常設展示

Works of The Contemporary Artists

■ 施設図



須恵焼常設展

Sue Porcelain Ware

企画展

Monthly Exhibition Booth

企画展

Monthly Exhibition Booth

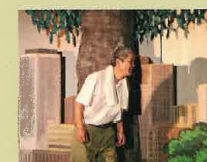
— 多彩なアートに触れる音楽・演劇・ワークショップ —

ふれて
かんじる



〈子ども向けワークショップ〉
作家の方が講師になって頂くワークショップを行っています。

きいて
かんじる



〈コンサート・演劇〉
ホールや展示室でコンサートや芝居を行っています。